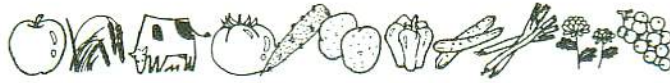


東青



活彩あおもり

みどりの通信

NO.83

平成18年4月25日

東地方農林水産事務所普及指導室

〒030-0801 青森市新町二丁目4-30 (Tel 017-734-9965、fax 734-8305)

電子メール hi-nosui@pref.aomori.lg.jp



集落営農について説明を受ける皆さん〈中小国地区〉

集落営農組織の育成を加速化！

普及指導室では、平成19年産から始まる、品目横断的経営安定対策に対応するため、昨年12月に副室長をキャップにしたプロジェクトチームを2班設置して、関係機関との連携の下、室員全員で70回を越える座談会等に出席し、集落営農の説明に当たりました。

特に、モデル地区の青森市左堰地区及び外ヶ浜町中小国地区では、役員会で話し合いを重ねた結果、左堰地区では小麦を、中小国地区では大豆を品目横断的経営安定対策の対象品目とし、経理の一元化や規約案の作成を進めることとなりました。

18年度の普及計画では、モデル地区以外でも、説明会などで集落営農への取り組み意欲が見られた地区を中心に、熟度に応じた集落営農を推進することとしています。

また、転作の本作化を図るため、大豆とそばの展示ほを設置し、安定生産及び多収穫技術の実証を行う予定です。

なお、引き続き、認定農業者を志向する農業者への農業経営改善計画の策定支援も行っていますので、品目横断的経営安定対策への加入を目指す方は、市町村、農業協同組合、普及指導室までご連絡ください。

東青産そば検討会開催される

東青地域は県内一のそばの作付面積を誇る一方で、そば産地としての知名度が低く、転作田の湿害等により生産が不安定なことが課題となっています。そこで、そばの生産性向上と、地産地消の推進による販売拡大を目的に、平成18年3月14日に「東青産そばの生産及び販売に係る検討会」を開催しました。

管内のそば生産集団、そば打ち研究会、市町村、農業協同組合等が一堂に会し、東青産そばの現状と改善方向について、生産・販売の両面から活発に意見交換が行われました。

また、東青産階上早生そば、茨城県産常陸秋そばの食べ比べを実施しました。参加者に品種名を明かさずアンケートを行ったところ、東青産階上早生そばの方が若干評価が高く、全国的にも有名な常陸秋そばと遜色ないとの結果が得られました。

試食用そばを作ったそば店からは、地場産をこれからも使っていきたいという意見もあり、次年度の生産・販売に向けて、生産意欲が高まった検討会となりました。

18年度は、東青産そば粉を使用するそば店の掘り起こし、そば店との契約栽培等の推進やそばのオーナー制度等に取り組むこととしています。



現状報告を受けている参加者

東地方農林水産事務所ホームページのお知らせ

当事務所では、昨年度、普及指導室をはじめ所内各課、青森家畜保健衛生所、青森地方水産業改良普及所及び東青地方漁港漁場整備事務所の業務内容や各種情報を関係する皆様にお知らせするため、ホームページを開設しました。ぜひ一度ご覧ください。

アドレス <http://www.applenet.jp/higashi-nousui/index.htm>

春の農作業安全運動

～事故の芽を摘む工夫をしよう！～

事故の多くは、乗用型トラクターでの転落・転倒です。作業時には、道路・ほ場の端に寄りすぎないようにし、ほ場への出入りや畦越えは慎重に行いましょう。また、不慮の事故に備えて、安全フレームやキャブを装着しましょう。

山菜採り等遭難事故防止

家族等に行動予定を連絡し、単独の入山はやめましょう。

万が一に備えた装備をし、目先の収穫より安全を優先して考えましょう。

山火事防止

山火事は貴重な森林資源を一瞬のうちに焼失させる大変恐い災害です。山火事の発生原因は、タバコの投げ捨て、たき火、火入れなどの不始末が原因の約68%を占めています。一人一人の力を合わせ、恐ろしい山火事を防ぎましょう。

平成18年度スタッフ紹介

とうせいみなみ
東青南地域担当



副室長(総括主幹)
清藤 強



室長
古川 国芳

とうせいきた
東青北地域担当



副室長(総括主幹)
坂岡 明



主幹
菊池 秀夫
【畜産・機械】



主幹
長村 芳枝
【野菜・集落営農】



主幹
長内 明人
【経営・資金】



主査
工藤 マサ子
【男女共同参画】



主査
新山 節子
【女性起業】



主査
斉藤 仁志
【水稲・畑作】



主査
蝦名 照仁
【野菜・畑作】



主査
若宮 通子
【畑作・野菜】



主査
小笠原 宜弘
【果樹・気象】



主査
加藤 直子
【花き・畑作】



主査
下田 有紀
【青少年・情報】



技師
白取 愛
【生活】



技師
川村 美紀子
【土壌・果樹】



臨時事務手
山本 智美



臨時事務手
角谷 裕奈

新VIC・ウーマン紹介

地域のよりよい『農林水産業と暮らし』を指揮する農山漁村女性リーダーとして、新たにVIC・ウーマンに認定(平成18年3月)されたお二人を紹介します。



やまざき
山崎せき子さん (平内町)

無農薬(一部減農薬)野菜の栽培や、ホタテと米にこだわった加工品づくりを進め、「農協無人販売」や「ほたて広場」で率先して販売するなど、直売所を拠点とした地産地消を目指して頑張っています。

また、婦人会会長や交通安全母の会支部長、保健協力員、民生委員等を務めるなど、多面にわたり地域に貢献しています。



おうちれいこ
尾内玲子さん (平内町)

安全・安心な産品を多くの人に届けたいと、減化学肥料による野菜栽培や地場の農水産物を活用した加工・販売に積極的に取り組んでいます。

また、小・中学校PTAや青空子ども会育成会のリーダーとして、若夫婦や子供達に「手塩にかけた農産物を人に喜んで食べてもらえる農業の魅力」を伝えようと、地域の食農教育活動をリードしています。



本県の県産品の認知向上と総合イメージづくりを進めるため、県産品PR用キャッチフレーズ・シンボルマーク・イメージキャラクターができました。よろしくお願ひします。



農薬散布時には注意を！！

ポジティブリスト制度が平成18年5月29日からはじまり、農林水産物など食品への農薬等の残留規制が厳しくなります。

このため、農薬等の使用の際は、これまで以上に農薬の飛散(ドリフト)などに注意をしてください。

詳しいことを知りたい方は、当普及指導室にお問い合わせください。